

週間展望・回顧(豪ドル、南ア・ランド)

August 1, 2025

## 豪ドル、利下げの可能性高まる

- ◆豪ドル、日米金融政策を受けた動きに
- ◆豪ドル、4-6 月期 CPI の鈍化で利下げの可能性高まる
- ◆ZAR、SARB は 0.25% の利下げを決定

### 予想レンジ

豪ドル円 94.00-98.00 円

南ア・ランド円 8.00-8.40 円

### 8 月 4 日週の展望

豪ドルは上値の重い動きとなりそうだ。今週開催された米連邦公開市場委員会 (FOMC) では市場予想通りの金利据え置きと 2 名の理事から反対票が投じられたことが明らかになったが、その後のパウエル米連邦準備理事会 (FRB) 議長の定例記者会見は、市場では「タカ派」的な内容と受け止められた。日銀も予想通りの金利据え置きを決めたほか、植田日銀総裁の会見は利上げを急いでいないと印象付ける内容だった。日米の金融政策を手掛かりに、市場全般の方向性は円安・ドル高へと傾くと予想され、豪ドルも対ドル・対円で影響を受けることになるだろう。また、豪州では金利先安観が高まっており、しばらくは豪ドルが戻り売りに押されやすい展開となることも考慮しておきたい。

今週発表された注目の 4-6 月期消費者物価指数 (CPI) は前年比 2.1% の上昇と前期の 2.4% からインフレ鈍化が確認されたほか、豪準備銀行 (RBA) が重視しているトリム平均も前年比 2.7% と 2021 年 10-12 月期以来の低水準となった。RBA のインフレ目標である 2-3% の範囲内に 2 四半期連続で収まっており、市場では次回 (8 月 11-12 日) 理事会での 0.25% 利下げが既定路線となりつつある。今後、RBA が金融緩和ペースを速めるかの判断は次回理事会での声明文を待つ必要があるが、当面は金利先安観が重しとして意識されやすい状況が続くだろう。

南アフリカ・ランド (ZAR) は伸び悩む展開となりそうだ。今週開催された南アフリカ準備銀行 (SARB) の金融政策決定委員会 (MPC) では全会一致で 0.25% の利下げを決定。クガニャゴ SARB 総裁は会見で「現在のインフレ目標 (3-6%) の下限を目指す」との見解を示した。SARB と財務省が検討中のインフレ目標引き下げは正式発表こそなかったものの、実質的に SARB のインフレ目標は 3% になったと考えてもよい。SARB 総裁は「これにより金融政策余地が拡大する」と説明しているが、市場では現状の緩和サイクルは終了が近いと見ており、今回の決定に対する反応が注目される。

なお、南アフリカと米国間では期日となる 8 月 1 日を迎えたが関税交渉は合意に至らず、南アフリカから米国向けの輸入品に対して 30% の関税が賦課されることが発表された。両国間の関係が冷え込んでいたこともあって今回の結果はサプライズではないが、すでに今年の米国向け自動車輸出が前年比で 5 分の 1 程度まで急減したとの報道もあり、関税の影響がさらに顕在化した際には ZAR 相場にとっても懸念材料となりそうだ。

### 7 月 28 日週の回顧

豪ドルは対ドルで軟調に推移。FOMC 後は全般にドル買いが強まった影響もあり、週末にかけて 0.64 ドル前半まで値を下げた。一方、対円ではドル円が上昇した影響も受けたため、方向感に乏しかった。ZAR は対ドルで 5 月以来の水準まで売りに押され、対円でも 8.2 円台でやや上値の重さが目立つ動きとなった。(了)